

決 算 概 要

— 令和5年度 —

学校法人精華学園

■ はじめに

学校法人精華学園の令和5年度決算が、さる令和6年5月30日開催の学園評議員会ならびに理事会に於いて承認されました。ここに本学園の資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表の概要を報告させていただきます。

■ 収支の概要

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入と支出の内容および支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。令和5年度の資金収支計算書は下記のとおりで、収入の主な科目の内、学生生徒納付金収入は10億6千3百万円、補助金収入は5億3千3百万円となりました。支出につきましては、人件費10億2千8百万円、教育研究経費4億9千5百万円、管理経費は1億5千万円で、翌年度への繰越金は29億5千9百万円となりました。

事業活動収支計算書は、当該年度の収支の状況を経常的な事業活動に係る経常収支と、一時的に発生する臨時的な特別収支に区分し、それらの収支状況を把握できるようにしたものです。令和5年度の教育活動収入は16億5千7百万円、教育活動支出は18億3千3百万円、教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は△1億7千6百万円となりました。これに教育活動外収支差額△1百万円を加算した経常収支差額は△1億7千7百万円となりました。そして、この経常収支差額に、特別収支差額5百万円を加算した基本金組入前当年度収支差額は、△1億7千1百万円となりました。これから施設設備等の取得（第1号基本金）や将来施設等を取得するための資金（第2号基本金）等に充てた基本金組入額9千6百万円を差し引いた当年度収支差額が2億6千7百万円の支出超過となりました。これに前年度繰越収支差額△3億3千6百万円を加算した翌年度繰越収支差額は△6億4百万円となりました。

貸借対照表は、年度末における資産、負債および正味資産（基本金、繰越収支差額）の状態、つまり財政状態を明らかにしたものです。令和5年度末の財政状態は、資産は前年度比2億5千3百万円の減で90億8千万円となっており、これに対して、負債は前年度比8千1百万円の減で12億3千2百万円となりました。その結果、資産総額から負債総額を差し引いた正味資産は、前年度比1億7千1百万円減の78億4千7百万円となりました。

■ おわりに

本学園の健全な運営を維持していくためには、教育環境の維持向上とともに施設設備等の充実も継続的に必要となります。令和5年度は、学習環境の向上と併せて、省エネルギーと環境面への配慮から短大・高校ともに全ての教室の照明をLED照明へ変更しました。その他、短大においては、情報機器実習室パソコンの更新を行い、高校においては、立花寺体育館の冷風機設置のための電源工事等を行っております。尚、高校においては熱中症対策として、令和6年度に本館体育館・立花寺体育館ともに空調機の設置工事を行う予定です。これからも教育環境や設備の充実を図るとともに、財務面でも健全で効率的な運用を心がけて参ります。今後とも引き続き関係各位の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

資金収支計算書

令和 5年 4月 1日 から
令和 6年 3月31日 まで

<総括表>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	(1,065,351,000)	(1,063,189,600)	(2,161,400)
手数料収入	(19,194,000)	(13,197,271)	(5,996,729)
寄付金収入	(1,710,000)	(2,604,039)	(△ 894,039)
補助金収入	(531,400,000)	(533,406,663)	(△ 2,006,663)
国庫補助金収入	95,000,000	89,250,600	5,749,400
地方公共団体補助金収入	436,400,000	444,156,063	△ 7,756,063
資産売却収入	(0)	(0)	(0)
付随事業・収益事業収入	(3,000,000)	(3,417,530)	(△ 417,530)
受取利息・配当金収入	(950,000)	(1,146,734)	(△ 196,734)
雑収入	(20,400,000)	(42,504,927)	(△ 22,104,927)
借入金等収入	(0)	(0)	(0)
前受金収入	(181,400,000)	(125,880,900)	(55,519,100)
その他の収入	(73,805,405)	(79,046,634)	(△ 5,241,229)
資金収入調整勘定	(△ 160,940,000)	(△ 183,271,671)	(22,331,671)
前年度繰越支払資金	(3,109,752,636)	(3,122,028,308)	
収入の部合計	4,846,023,041	4,803,150,935	42,872,106

(単位 円)

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	(1,018,700,000)	(1,028,187,294)	(△ 9,487,294)
教育研究経費支出	(506,800,000)	(495,711,768)	(11,088,232)
管理経費支出	(169,110,000)	(150,236,561)	(18,873,439)
借入金等利息支出	(1,911,000)	(2,402,807)	(△ 491,807)
借入金等返済支出	(50,000,000)	(50,000,000)	(0)
施設関係支出	(3,000,000)	(886,600)	(2,113,400)
設備関係支出	(30,800,000)	(32,937,826)	(△ 2,137,826)
資産運用支出	(40,300,000)	(40,291,156)	(8,844)
その他の支出	(52,000,000)	(78,967,331)	(△ 26,967,331)
〔予備費〕	4,000,000		4,000,000
資金支出調整勘定	(△ 18,260,000)	(△ 35,726,983)	(17,466,983)
翌年度繰越支払資金	(2,987,662,041)	(2,959,256,575)	(28,405,466)
支出の部合計	4,846,023,041	4,803,150,935	42,872,106

活動区分資金収支計算書

令和 5年 4月 1日 から
令和 6年 3月31日 まで

<総括表>

(単位 円)

		科 目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,063,189,600
		手数料収入	13,197,271
		経常費等補助金収入	531,543,663
		教育活動資金収入計	1,656,362,991
	支出	人件費支出	1,028,187,294
		教育研究経費支出	495,711,768
		調整勘定等	4,771,604
		科 目	金額
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	94,039
		施設整備等活動資金収入計	1,957,039
	支出	施設関係支出	886,600
		設備関係支出	32,937,826
		施設整備等活動資金支出計	73,824,426
		差引	△ 71,867,387
		調整勘定等	0
		施設整備等活動資金収支差額	△ 71,867,387
		科 目	金額
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0
		小計	36,347,755
		受取利息・配当金収入	1,146,734
		その他の活動資金収入計	37,494,489
	支出	借入金等返済支出	50,000,000
		小計	112,995,000
		借入金等利息支出	2,402,807
		調整勘定等	0
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 162,771,733	
	前年度繰越支払資金	3,122,028,308	
	翌年度繰越支払資金	2,959,256,575	

事業活動収支計算書

令和 5年 4月 1日 から
令和 6年 3月31日 まで

<総括表>

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(1,065,351,000)	(1,063,189,600)	(2,161,400)	
		手数料	(19,194,000)	(13,197,271)	(5,996,729)	
		寄付金	(1,710,000)	(3,461,235)	(△ 1,751,235)	
		経常費等補助金	(529,600,000)	(531,543,663)	(△ 1,943,663)	
		国庫補助金	95,000,000	89,250,600	5,749,400	
		地方公共団体補助金	434,600,000	442,293,063	△ 7,693,063	
		付随事業収入	(3,000,000)	(3,417,530)	(△ 417,530)	
		雑収入	(20,400,000)	(42,714,185)	(△ 22,314,185)	
			教育活動収入計	1,639,255,000	1,657,523,484 △	△ 18,268,484
教育活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	(1,020,700,000)	(1,023,411,644)	(△ 2,711,644)	
		教育研究経費	(648,800,000)	(638,855,911)	(9,944,089)	
		管理経費	(192,410,000)	(171,314,756)	(21,095,244)	
		徴収不能額等	(0)	(0)	(0)	
			教育活動支出計	1,861,910,000	1,833,582,311	28,327,689
			教育活動収支差額	△ 222,655,000	△ 176,058,827	△ 46,596,173
教育活動外収入の部	事業活動収入の部	受取利息・配当金	(950,000)	(1,146,734)	(△ 196,734)	
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)	
			教育活動外収入計	950,000	1,146,734	△ 196,734
	事業活動支出の部	借入金等利息	(1,911,000)	(2,402,807)	(△ 491,807)	
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)	
			教育活動外支出計	1,911,000	2,402,807	△ 491,807
	教育活動外収支差額	△ 961,000	△ 1,256,073	295,073		
	経常収支差額	△ 223,616,000	△ 177,314,900	△ 46,301,100		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)	
		その他の特別収入	(4,000,000)	(6,110,583)	(△ 2,110,583)	
			特別収入計	4,000,000	6,110,583	△ 2,110,583
	事業活動支出の部	資産処分差額	(0)	(0)	(0)	
		その他の特別支出	(0)	(398,390)	(△ 398,390)	
			特別支出計	0	398,390	△ 398,390
	特別収支差額	4,000,000	5,712,193	△ 1,712,193		

(単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
〔予備費〕	4,000,000		4,000,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 223,616,000	△ 171,602,707	△ 52,013,293
基本金組入額合計	△ 94,300,000	△ 96,241,205	1,941,205
当年度収支差額	△ 317,916,000	△ 267,843,912	△ 50,072,088
前年度繰越収支差額	△ 334,900,321	△ 336,678,986	1,778,665
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 652,816,321	△ 604,522,898	△ 48,293,423

(参考)

事業活動収入計	1,644,205,000	1,664,780,801	△ 20,575,801
事業活動支出計	1,867,821,000	1,836,383,508	31,437,492

貸借対照表

令和 6年 3月31日

(単位 円)

<総括表>

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(6,042,786,759)	(6,129,228,607)	(△ 86,441,848)
有形固定資産	< 5,734,415,714 >	< 5,859,925,689 >	< △ 125,509,975 >
特定資産	< 259,896,041 >	< 220,840,155 >	< 39,055,886 >
その他の固定資産	< 48,475,004 >	< 48,462,763 >	< 12,241 >
流動資産	(3,037,913,650)	(3,204,958,651)	(△ 167,045,001)
資産の部合計	9,080,700,409	9,334,187,258	△ 253,486,849
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	(933,995,281)	(988,980,189)	(△ 54,984,908)
流動負債	(298,991,229)	(325,890,463)	(△ 26,899,234)
負債の部合計	1,232,986,510	1,314,870,652	△ 81,884,142
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	(8,452,236,797)	(8,355,995,592)	(96,241,205)
第1号基本金	8,067,465,598	8,011,224,393	56,241,205
第2号基本金	240,000,000	200,000,000	40,000,000
第4号基本金	144,771,199	144,771,199	0
繰越収支差額	(△ 604,522,898)	(△ 336,678,986)	(△ 267,843,912)
純資産の部合計	7,847,713,899	8,019,316,606	△ 171,602,707
負債及び純資産の部合計	9,080,700,409	9,334,187,258	△ 253,486,849

計算書の科目の説明

資金収支計算書

収入の部

科目	科目の説明
学生生徒等納付金収入	授業料 入学金 実験実習料 施設設備資金収入等が含まれます。
手数料収入	入学検定料 証明手数料等です。
寄付金収入	学校法人への寄付金による収入です。
補助金収入	国庫補助金 地方公共団体補助金です。
資産売却収入	有価証券の満期による収入です。
付随事業・収益事業収入	公開講座収入です。
受取利息・配当金収入	受取利息 配当金です。
雑収入	施設設備利用料収入 私立大学退職金財団等交付金収入等です。
前受金収入	当年度に受け入れた翌年度の学生生徒等納付金収入です。
その他の収入	前期末未収入金収入等です。
資金収入調整勘定	期末に未収のもの(期末未収入金)や前期までに既に受け入れているもの(前期末前受金)を差し引くことで資金収入を調整しています。

支出の部

人件費支出	教職員の給与 退職金 役員報酬が含まれます。
教育研究経費支出	教育研究に係わる消耗品 光熱水費 旅費交通費他です。
管理経費支出	管理に係わる消耗品 光熱水費 旅費交通費他です。
借入金等利息支出	借入金の利息です。
借入金等返済支出	借入金の返済額です。
施設関係支出	土地 建物 構築物を取得するための支出です。
設備関係支出	教育研究用機器備品 管理用機器備品 図書を購入するための支出です。
資産運用支出	有価証券の購入資金および校地校舎取得の為の積立金等です。
その他の支出	前期末未払金支払支出等です。
資金支出調整勘定	期末未払いのもの(期末未払金) 前年度までに支払っているもの(前期末前払金)を差し引くことで資金支出を調整しています。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は 教育活動による資金収支 施設整備等活動による資金収支 その他の活動による資金収支にわかれており、それぞれに収入 支出 収支差額を計上しています。

教育活動資金収支差額	教育活動資金収入から、教育活動資金支出を差し引き、調整勘定等で調整した金額です。令和5年度は、△12,602,638円です。
施設整備等活動資金収支差額	施設整備等活動資金収入から、施設整備活動資金支出を差し引き、調整勘定等で調整した金額です。令和5年度は、△71,867,387円です。
その他の活動資金収支差額	その他の活動資金収入から、その他の活動資金支出を差し引き、調整勘定等で調整した金額です。令和5年度は、△78,301,708円です。
支払資金の増減額	上記3つの活動資金収支差額の合計です。 翌年度繰越支払資金から前年度繰越資金を差し引いたその年度の増減額です。

事業活動収支計算書

事業活動収支は 教育活動収支 教育活動外収支 特別収支に分かれており、それぞれに収入 支出 収支差額を計上しています。

科目	科目の説明
寄付金	事業活動収入には現物による寄付も含まれます。
人件費	教職員の給与 役員報酬の他に退職給与引当金組入額も含まれます。
教育研究経費	資金収支の教育研究経費の他に教育研究の減価償却額も含まれます。
管理経費	資金収支の管理経費の他に管理の減価償却額も含まれます。
基本金組入額合計	当年度の第1号基本金 第2号基本金 第4号基本金への要組入額と借入金返済額と前期の未払金の組入額から、今期の除却額と未払金を引いた金額をマイナス表示しています。
翌年度繰越収支差額	前年度繰越収支差額に当年度収支差額と基本金取崩額を加えた額です。

以外の科目は資金収支計算書に同じのため記載省略

貸借対照表

資産の部

科目	科目の説明
固定資産	有形固定資産+特定資産+その他の固定資産です。
有形固定資産	土地 建物 構築物 教育研究用機器備品 管理用機器備品 図書 車両 建設仮勘定です。
特定資産	退職給与引当 奨学金引当 第2号基本金引当資金です。
その他の固定資産	投資有価証券等です。
流動資産	現金預金 退職資金交付額の未収入金等です。
負債の部	
固定負債	長期借入金 退職給与引当金です。
流動負債	短期借入金 未払金 前受金等です。
純資産の部	
第1号基本金	施設設備当初取得額(購入額)の合計です。
第2号基本金	将来の校地校舎取得の為の積立金です。
第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額です。
翌年度繰越収支差額	プラスは収入超過を マイナスは支出超過を表します。
純資産の部合計	基本金と繰越収支差額の合計です。 また 資産の部合計から負債の部合計を差し引いた額が純資産の部合計となります。

学校法人の会計について（解説）

学校法人の目的は、学校を運営し教育・研究を行うことにあり、一般企業のように営利を目的とはしていません。

教育活動は社会へ輩出する人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内及び、社会に伝えることを目的としています。

企業会計は、収益と費用からその経営状況を知ることにあります。学校会計は、計算書類によって財務の面から、教育研究活動が円滑に行われているか否かを知ることにあります。

教育研究活動を行うためには、教職員の配置や、施設・設備の整備が必要です。

教育研究環境を充実・発展させるための運用資金や運用財産を管理しながら、財務状況を正しく掴んで経営する必要があります。

教育研究は事業計画に沿って予算を立てる考えで行っていくので、予算書は大切な書類となります。

補助金の交付を国または地方公共団体から受ける学校法人は、「学校法人会計基準」に沿って会計処理を行い、各種計算書類を作成する必要があります。

学校法人会計基準では、「資金収支計算書」「活動区分資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の各計算書類の作成が義務づけられています。

また学校法人は長く教育研究活動を行い、校地や校舎等を健全に、継続的に維持することを目的に「基本金」の制度が取り入れられています。これが学校法人会計の一番の特徴でもあります。学校法人会計基準第 29 条には、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資金を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」とあります。

学校法人 精華学園

財 産 目 録

令和6年3月31日

1. 資産総額	9,080,700,409 円
基本財産	5,734,723,254 円
運用財産	3,345,977,155 円
2. 負債総額	1,232,986,510 円
3. 正味資産	7,847,713,899 円

資 産

種 別	価 額
基本財産	5,734,723,254 円
土地	3,225,068,510 円
建物	1,903,327,827 円
構築物	228,375,214 円
教育研究用機器備品	122,353,183 円
管理用機器備品	13,574,586 円
図書	240,736,116 円
その他の基本財産	1,287,818 円

運用財産	3,345,977,155 円
現金預金	2,959,256,575 円
退職引当特定資産	17,333,575 円
奨学金引当特定資産	2,562,466 円
第2号基本金引当特定資産	240,000,000 円
生命保険積立金	28,644,764 円
有価証券	0 円
その他の運用資金	98,179,775 円

負 債

種 別	価 額
固定負債	933,995,281 円
長期借入金	700,000,000 円
退職給与引当金	233,995,281 円

流動負債	298,991,229 円
短期借入金	50,000,000 円
未払金	33,578,797 円
前受金	125,880,900 円
その他の流動負債	89,531,532 円

監査報告書

学校法人 精華学園

理事会 殿

令和6年5月24日

学校法人 精華学園

監事 藤本宏文



監事 荒木裕幸



私たち、学校法人精華学園監事は、私立学校法第37条第3項に基づき、同学園の令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表並びに附属明細表）及び、理事の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私達は上記の計算書類は、学校法人会計基準（文部省令第18号）に準拠しており、学校法人精華学園の令和6年3月31日現在の財政状態および同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。

また、理事の業務執行状況に関する不正の行為または法令もしくは寄付行為に違反する事実のないことを確認いたしました。

以上

学校法人 精華学園
令和 5 年度事業報告書

I. 法人の概要

法人名	学校法人 精華学園			理事長名	吉田幸滋			
所在地	福岡県福岡市博多区南八幡町 2-12-1			電話番号	092-591-6331			
設立年月日	昭和 26 年 3 月 7 日							
目的	精華学園は仏教精神に立脚した教育理念のもとに、吉田マツが設立し、家庭及び社会人としての高度の教養と職業に直結する専門的知識・技能を授けつつ、新時代に即し国家社会に貢献しうる心身共に健全な女性の育成を目的とする法人である。							
設置する学校名	科別	課程	入学定員	入学者数	令和 6 年 5 月 1 日		令和 6 年 5 月 1 日	
					学生・生徒数	本務者数	収容定員	在籍者数
精華女子短期大学	幼児保育学科		100	50	250	122	26	21
	生活科学科		120	102	270	187		
	専攻科 保育福祉専攻		35	6	35	6		
精華女子高等学校		全日制	400	345	1200	1029	76	20
	看護専攻科		40		80	63		
役員等に関する事項		定数		現数		任期		
理事		5～8 名		8 名		4 年		
監事		2～3 名		2 名		4 年		
評議員		16～26 名		20 名		2 年		

令和 5 年度	理事会開催回数	8 回
	評議員会開催回数	2 回

II. 短期大学

【1】学 務

建学の精神

1. 建学の精神と教育理念：建学の精神と教育理念に基づいて、事業計画を推進した。

建学の精神「仏教精神に基づく人格教育」の具現化

(1) 精華学園の建学の精神『仏教精神に基づく人格教育』及び精華女子短期大学の教育理念

『誠・和・愛』に基づき、短期大学の機能と役割、教育の質の向上、学生の国際性の涵養等、社会が要請する教育の改革を推進して、社会において「自律実践・自立貢献」できる女性を育成する。基本方針に従い、事業計画を推進した。

(2) 建学の精神「仏教精神に基づく人格教育」の具現化

① 仏教法話：必修講座として前期 3 回、後期 3 回の計 6 回実施 前期 3 回、後期 3 回実施済

② 入学後のオリエンテーションで「建学の精神を考える集い」を実施

4/6 に住職によるご法話「花まつりに寄せて」を実施

③ 教育課程内・外における「建学の精神」の周知と実行 実施

2. 学生募集

(1) 入学生の確保

定員以上及び最大許容値以下の範囲で各学科・専攻の教育環境を考慮して目標値を定め、入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)に即した志願者を募り、入学生総数 270 名を確保する。

幼児保育学科および食物栄養専攻の入学定員の見直しを実施し、それに沿って目標値を設定した。

入学者総数 270 名の確保を目標したが、入学生は 157 名に留まった(前年比-16 名)。本科では併設校からの入学者は 88 名(前年度 79 名)、一般校からは 64 名(前年度 87 名)であった。入学生数減少の主要因は、九州・山口の 18 歳人口の減少、高等教育の修学支援新制度(授業料の無償化)による 4 年制大学への進学者増、専門学校での PR や早期の生徒確保の戦略・戦術による専門学校人気の高さなどが考えられる。また、幼児保育学科及び食物栄養専攻においては、保育職や栄養士職の労働環境や業務に関するマイナスイメージが影響していることも考えられた。

(2) 広報活動の強化

① 高校訪問体制・方法の見直しおよび効果的な高校訪問の実施 実施済

② オープンキャンパスの企画の充実と参加者増に向けての検討

オープンキャンパスの内容や運営方法を見直し、参加者および入学者増につなげる。

6 回のオープンキャンパスを実施したが、3 年生・既卒の参加者数は昨年を下回った(R5:139 名/R4:173 名)。

③ インターネット・ウェブ及び印刷物等の有効活用(特にスマートフォン世代を意識化して)

高校生の視点に立ったホームページの構成および内容の見直し、動画コンテンツの充実。動画アップ回数は、幼児保育学科 20 回(前年度 5 回)、食物栄養専攻 23 回(前年度 3 回)、生活総合ビジネス専攻 30 回(前年度 3 回)、専攻科 8 回(前年度 8 回)と専攻科以外は前年度を大きく上回る動画数をアップすることができた。

ホームページ閲覧者数は、昨年実績を上回ったが(R5:62000/R4:60949)、資料請求数では昨年を下回った(R5:5275/R4:6446)。ホームページの閲覧から資料請求やオープンキャンパス参加につながるようホームページの構成や大学案内の内容等を見直しを検討する。

④ 高短連携を導入した広報活動の積極的推進

高校生と短大生の交流会を継続して実施し、併設校からの入学生確保に努める。2/6 実施済

⑤ 専攻科学生確保のための広報活動の強化

学内および他の短大からの入学者の確保に努める。実施済

⑥ SNS を活用した高校生の目に留まる広報の実施

Instagram で各学科専攻別のアカウントを作成し、学校行事だけでなく大学生活の日常や授業風景などの写真やショート動画を日々投稿した。

※3/31 時点のフォロワー数：短大 632 名、幼児保育学科 570 名、食物栄養専攻 148 名、生活総合ビジネス専攻 92 名、専攻科 82 名

(3) 高大接続改革の推進

① 併設校との連携強化と接続教育

・高短連携部会の継続・充実：5/24 実施(1 回目)、3/11 実施(2 回目)

・各学科・専攻、コース間の連携、導入教育・接続教育の充実

食物栄養専攻：9/13 に理科実験を実施、調理実習と理科実験(2回目)を2月に実施済

全学：ドリカムコース進路研究(6/6、10/10、11/8)実施

3年担任向け大学案内(5/13)、推薦一期入学試験、案内・面接指導(10/2)、

1年生向け大学案内(1/25)、導入教育(高校で2/5、短大で2/14)、

短大生との交流会(2/6)、新3年向けOC(3/6)を実施。

- ・オープンキャンパス、学園祭等における学生-生徒間交流の充実 実施済
- ・高校生のためのセミナー実施 ニーズがなく中止
- ・高短の合同研修会の実施：11/25 にグループワーク形式で実施

②一般校との連携強化と接続教育

- ・入学者受け入れ方針に基づいた入学者選抜の実施(学力の3要素をふまえた多面的・総合的な入試選抜) 実施済
- ・効果的な入学者選抜の方式について検討する。
実施済：総合型選抜の一本化および面接回数減(1回)、推薦三期の廃止
- ・入学者の追跡調査の実施 実施済
- ・高大接続教育の連携強化に向けての検討 実施済
- ・高校で開催されるガイダンスへの積極的な参加 実施済(R6年度は教員が積極的に参加する)

【2】教育活動

1. 大学教育の質向上

(1)卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針

(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づく教育改革(三つの方針の一体的策定と具体化の推進) 実施済

(2)キャリア教育・職業教育の充実・強化 実施済

学力の三要素(知識・技能の取得、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働)をふまえたキャリア教育、職業教育の推進 実施済

(3)学生の学習受容性(学習目標、学習意欲、基礎学力、学習習慣等)の把握 実施済

(4)二極化対策(初年時教育、導入教育、補習授業等、付加活動、先行教育、付加資格等)の実施。入学前課題の評価を学修成果のひとつとして捉え、入学後の学習指導に活用する。 実施済

(5)能動的学習(グループ学習、フィールド学習、PBL等)の実施、ICTの有効活用 実施済

(6)課外活動(学友会、クラブ活動、行事、ボランティア、社会活動、地域貢献、OC等)の有効活用 実施済

(7)学修成果の可視化

キャリアプランニングシート、履修カルテ、卒業生調査、学修時間の調査等を活用して学修成果の把握および可視化を行い、カリキュラムマネジメントに活用する 実施済

2. 教育の質の向上に関するPDCAサイクルの確立

シラバス記載内容の適正化、学修時間・学習行動の把握、学生による授業評価の実施(考察の提出を含む)、学修成果の可視化、FDの実施、地域企業との連携(協定書に基づく)によるアクティブラーニングの展開等 実施済

3. 編入学支援教育の充実・強化

ガイダンスの実施、試験対策、小論文、面接指導等 実施済

食物栄養専攻から3名が編入学(西南女学院大学、九州女子大学、尚絅大学)

4. 専門教育充実のための各種講座の実施

- ① 「栄養士のための化学入門」等の補習教育を実施(食物栄養専攻)90分×7回実施(4~5月)
- ② 栄養士実力認定試験対策講座の実施(食物栄養専攻)90分×19回実施(4~11月)
試験結果：A判定48%(前年度45%)
- ③ フードスペシャリスト資格認定試験対策講座の実施(食物栄養専攻)90分×3回実施(4~11月)
試験結果：合格率79%(前年度78%)
- ④ 登録販売者対策講座の実施(食物栄養専攻、生活総合ビジネス専攻合同)
90分×10回実施(4~11月)
試験結果：生活総合ビジネス専攻から1名合格(前年度2名)
- ⑤ ビジネススキルアップ講座等の実施(生活総合ビジネス専攻)
日商PC(文書作成)検定(3級2名合格)／秘書技能検定(2級4名、3級27名)／旅程管理主任者研修(受講希望者なし)／サービス接客検定(2級2名、3級25名合格)／ITパスポート(受験希望者なし)／医事管理士・医療管理秘書士認定試験(医事管理士7名、医療管理秘書士32名合格)
- ⑥ 「セラピューティック・ケア介護セラピスト」「インファント・セラピスト」を専攻科付加資格とするため所定の受講科目を実施(専攻科)実施済(12~1月)(全員資格取得)
- ⑦ 介護福祉士国家試験対策講座の実施(専攻科)実施済(4~1月)試験結果11名中10名合格
- ⑧ 住環境コーディネータ試験対策講座の実施(専攻科)実施済(10~11月)(合格者なし)。

【3】学生支援

1. 就職支援活動の強化

- (1) キャリア・職業意識の高揚と進路ガイダンスの実施 実施済
専門職への就職を基本とするが、学生個人の希望に沿った業種や求人のマッチングを行う。
- (2) 地域企業人の協定によるキャリア教育の実施(西ロータリークラブ等)
生活総合ビジネス専攻：マルタイ(10/19実施)、ホテルオークラ(11/7実施)、
日本旅行(11/17実施)
食物栄養専攻：マルタイ(11/1実施)、白十字病院(1/10実施)
- (3) 学生の就業力育成 学外実習、インターンシップを実施済
- (4) 教員・職員連携による学生就職活動の促進
学生支援課と学科専攻の間で定期的に学生就職活動の情報交換を実施する 実施済
- (5) 就職率の向上
就職希望者に対する就職率だけでなく、卒業予定者に対する就職・進学率の向上を意識した就職活動の支援 実施済
学生支援課は、積極的に求人依頼と求人開拓を行い、学生に情報提供を行った。また、各学科・専攻長およびアドバイザーと連携を取り、学生の就職活動を教職員で協働して個別支援した。さらに、専門職以外にも就職先を拡大するための広報活動を開始した。その結果、本科、専攻科ともに就職率98%以上を達成した。また、卒業生に対する進路決定者についても、本科90.8%(前年度95.2%)、専攻科100%(前年度92.9%)となっており、前年度をやや下回ったものの90%を超える実績であった。

(2024. 5. 1 現在)

	学科・専攻	卒業者	進学者	就職者	その他	就職希望者	就職率	進路決定率
学科(課程)	幼児保育学科	77名	6名	62名	8名	63名	98.4%	88.3%
	食物栄養専攻	52名	3名	46名	3名	46名	100.0%	94.2%
	生活総合ビジネス	77名	0名	70名	6名	70名	100.0%	90.9%
	小計	206名	9名	178名	18名	179名	99.4%	90.8%
専攻科：保育福祉専攻		11名	0名	11名	0名	11名	100.0%	100.0%
合計		217名	18名	189名	18名	190名	99.5%	91.2%

(その他：家事、アルバイト、パート勤務等)

2. 学生生活充実の支援

(1) 教学業務の ICT 化推進

大学間連携共同教育による IR ネットワークの有効活用の検討(GP 終了後の義務)。

2020 年度に実施した ICT 化の拡大・高度化を進める。 実施済

(2) 図書館の充実と有効活用 来館者数・貸出冊数は例年並であったが、電子書籍の貸出が低調であり今後の検討課題である。

(3) 課外活動の支援

吹奏楽部等の活動を支援し、併設校との協力関係を深めるとともに、一般校からの入学者増に結び付ける。 実施済

(4) 留学生支援 3名の留学生の受入れ(前期)、1名の留学生派遣(後期)を支援

(5) 教育環境の整備

Wi-Fi 設備増設済、沐浴人形セット更新済、ステンレス架台更新済、
高齢者擬似体験エキスパートセット購入済、図書館用ノートパソコン更新済、
学生支援課デスクトップ、ノートパソコンおよびプリンター更新済、301・311 教室
プロジェクター更新済、304 教室 HDMI 設置済、吹奏楽部楽器増設。
全教室の照明を LED に交換済

(6) 中途退学者の防止と対策の検討および取り組みの強化

学科専攻内で早期発見に努め、早い段階での対応を行う。近年の中途退学の理由等を検証して、傾向と対策を取る。 実施

また、8/30 に退学者防止のための教職員研修会を実施した。

(7) 学生寮の活用

寮生アンケートを実施しより快適な寮生活の改善に努める。 1月実施済

3. 学生環境調査の活用と学生満足度の向上

学生環境調査の結果を踏まえて、Wi-Fi 設備を増設する。コロナ禍で中止になっていた学内行事は、可能なものから順次再開する。 実施

Wi-Fi 設備増設済、体育祭に代えてクラスマッチを実施、11/4 学園祭開催(683 名来校)

4. 卒業生・修了生支援と連携

(1) リカレント教育、里帰りの会、リフレッシュ研修、卒業生相談等の実施(必要に応じてオンラインを併用)

里帰りの会：6/17、11/18 実施

リカレント講座：6/17 実施(幼児保育学科)、管理栄養士対策講座(実施済、食物栄養専攻)

在学生・卒業生のために資格支援サイト(実施済、生活総合ビジネス専攻)

(2) 同窓会との連携の強化 実施中

【4】 FD・SD 活動の充実・強化および自己点検評価

(1) 教職員研修会の実施(FD・SD の実施方針・計画の全学的策定と取り組み)

必要に応じて動画配信を併用して実施する。下記の研修会を実施済

実施日	実施項目	内容	講師等
7/10	教職員研修	2022 年度グッドティーチング賞受賞科目 「保育内容総論 I」講義	朝木徹 講師
8/30	教職員研修	中途退学予防に向けた取り組みについて	九州産業大学 一ノ瀬大一 先生
9/20	理事長講話	①決算書の読み方および財務分析について ②令和 5 年度学園の財務について	吉田幸滋 理事長
9/20	教職員研修	学生環境調査アンケートについてグループ ワークによる検討	-
12/26	学長講話 教職員研修	①大学改革の動きについて ②入学広報中間報告	山下耕平 学長代行 三好伸幸 准教授
2/7	教職員研修	①仏教法話 ②合理的配慮についての本学の取り組み	岡本明了 住職 志方亮介 講師
3/11	教職員研修	今年度のまとめ AED の研修	動画配信 (Teams 使用)

(2) 学生による授業評価の実施とグッドティーチング賞の授与

前期・後期の授業評価実施。令和 5 年度のグッドティーチング賞(令和 4 年度の授業評価に基づく)は食物栄養専攻水谷玲香講師に授与された。

(3) 公開授業の実施 7/10 実施

(4) 自啓録による教員の自己点検評価 実施済

(5) 外部評価委員会の実施(3 ポリシーをふまえた教育活動の適切性の確保に向けて)

3/6 実施済

(6) 令和 4 年度自己点検・評価報告書の作成と公開

報告書作成、ホームページ上に公開(10 月)

(7) 令和 4 年度教職課程の自己点検・評価報告書の作成と公開

報告書作成、ホームページ上に公開(10 月)

【5】 教員の研究活動の充実・強化

(1) 外部資金獲得のための体制づくり(科研費等)実施済

(2) 教育研究論文投稿の奨励と「学長教育研究論文賞」の授与

学長教育研究論文賞は生活科学科生活総合ビジネス専攻の藤久士講師に授与された。

(3) 研修日の有効利用と教育研究活動の推進 実施済

【6】 地域連携・社会貢献活動(エクステンションセンター)

1. 正課外教育および大学開放教育

- (1) 各種講座等の実施(社会人対象及び卒後教育講座等を含む)
 - ① 保育リカレント講座の実施：6/17 実施
 - ② 保育・子育て公開講座の実施
 - ③ 「子どもスポーツ教室」(幼児～小学校低学年対象)10/22 実施
 - ④ 管理栄養士国家試験対策講座(通信講座)の実施 実施済(6～2月：4名受講)
 - ⑤ クッキングセミナーの実施 12/2 実施済
 - ⑥ 「精華パティシエ学級」の実施 6/17 実施(8名参加)、2/3 実施済(15名参加)
 - ⑦ 「親子食育講座」(小学生の親子対象)の実施 8/7 実施(45名参加)
 - ⑧ ビジネススキルアップ講座 実施(4～10月：50名受講)
 - ⑨ 「せいかよかよか倶楽部」の実施 5/7、5/17、10/18 実施
 - ⑩ 高校生のための秘書検定対策講座の実施 ニーズがなく中止
 - ⑪ キッズプログラミング教室の実施 8/5 実施(8名参加)
- (2) 「福岡市南区大学連絡会議構成校と福岡市南区との連携に関する協定」による事業への参加
南区子ども大学として親子食育講座とキッズプログラミング教室を開催。
幼児保育学科は8/7 実施(45名参加)、専攻科は8/6 実施(17名参加)。
- (3) 「春日市教育委員会の教育交流協定」による事業の充実
春日市のニーズ調査と本学が提供できるコンテンツの棚卸しを行う
春日中学校、那珂川北中学校にて食育授業を実施済(12月)
- (4) 地域における子育て支援事業への参加 7/12 実施
- (5) 「認知症キャラバンメイト」の展開 7/12 実施
- (6) 福岡県地域医療介護総合確保基金を充てて実施する事業への参加(介護の裾野を広げる事業、学生が作成する介護の仕事理解促進事業)10/7 開催の福岡介護つながるプロジェクトに参加
- (7) 各学科・専攻、専攻科で協働して取り組む地域連携、社会貢献活動の検討 実施済

2. 音楽講座

弦楽器、管楽器等の講座を実施する。 実施(弦楽器 17名、管楽器 2名受講)

3. コミュニティオーケストラ

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。

- ① コミュニティオーケストラ第20回定期演奏会
11月26日にアクロス福岡で開催(768名来場)
- ② 第11回キャンパスコンサート(精華学園記念館2Fカフェテリア)
2020年度から延期していたもの。再延期の予定。 再延期

【7】 国際交流(グローバル化への対応)

- (1) 崇義女子大学校との交流活動
 - ① 日本語実務教育の委託講義 10名受入(6～7月)
 - ② 交換協定短期留学生受入 2名受入(前期)
- (2) 中国厦門理工学院との交流活動
 - ① 交換留学生受入れ 希望者無し
 - ② 学生派遣体制の整備の一環として交流研修の検討 実施なし
- (3) 慶南情報大学校との交流活動

- ①交換留学生受入れ 1名受入(前期)
 - ②本学学生の交換留学生の派遣 1名派遣(後期)
 - ③本学学生の提携校先の専門職留学体験プログラムの検討 実施なし
- (4)留学生の為の日本語講座の実施 実施(前期)

【8】 大学間連携および産学官連携

1. 短期大学コンソーシアム九州における取組み

福岡、佐賀、長崎の七短大の連携による事業「短期大学士課程の職業・キャリア教育と共同教育学 IR ネットワーク」(文部科学省平成 24~28 度大学改革推進プログラム)の継続 実施済

【9】 大学の情報公開及び大学の広報活動

- (1)適切な情報公開(大学ポートレート) 実施済
- (2)教育活動の広報 実施済
- (3)マスメディアの積極活用 検討済
- (4)ホームページ更新の迅速化および内容の充実 実施済
- (5)日本私立短期大学協会短大クエスチョンの活用 実施済

【10】 円滑な大学運営の実施

- (1)コンプライアンス(法令遵守)の維持向上 実施済
- (2)組織運営機能とガバナンスの強化 実施済
- (3)快適で安全な教育研究環境の整備の推進 実施済
健康診断、メンタルヘルス体制、防災訓練等。
- (4)健全な財政の維持・推進 実施済
 - ①SWOT 分析の実施 実施済
 - ②一般補助金・特別補助金・外部資金獲得の工夫 実施済
「私立大学等改革総合支援事業」等への申請、私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」の加算に向けた取組みおよび他省庁の特別補助事業等への申請の検討
「私立大学等改革総合支援事業」および「教育の質に係る客観的指標」に申請済
その他の補助金は申請したものの採択に至らなかった

【11】 中長期計画の着実な実施

本事業計画は、精華女子短期大学第 2 次中長期計画(2021 年度~2025 年度)に基づき策定し、年間 2 回の評価を実施する。本報告は令和 5 年度 3 回目の評価である。

Ⅲ. 高等学校

1. 学務

(1) 令和6年度生徒募集について(345名)

(2) 看護科・看護専攻科の取り組みについて

コロナ感染防止対策が緩和され、予定していた病院実習は予定通り実施することができた。令和5年度の准看護師試験は令和6年2月14日(水)に、看護師国家試験は令和6年2月11日(日)に行われ、受験した准看護師23名全員、看護師22名のうち21名が合格を果たした。

(3) 普通コース「進路研究」について

普通コースの科目「進路研究」では、生徒の希望に応じて「進路研究」の他に「情報ビジネス」や「器楽演奏法」の講座の選択が可能となるような教育課程を実施している。なお、令和5年度からは新たに「ダンス表現講座」を設けた。この講座では、ダンスをとおして自己を表現する力を養い、さまざまな場面で活かせる力を身につけさせることを目的としている。1学年における選択者数は次のとおりである。「進路研究」97名、「情報ビジネス」30名、「器楽演奏法」18名「ダンス表現講座」25名

2. 教育環境の整備等

① 照明設備の更新について

本校の各教室等は全て蛍光灯での照明となっていた。蛍光灯は製造中止としているメーカーも多く、今後入手が困難になることも考えられる。また、電気料金の軽減を図ることも考えあわせ、すべてをLED照明に変更する工事を行い、完了した。

3. 前年度から継続する事業や新規に導入する事業等について

以下の事業等について、コロナ禍の状況を見ながら、可能な範囲で実施することとしたい。

① 挨拶日本一運動

⇒生徒会役員等が門立ちや行事ごとの呼びかけを行うなど積極的に取り組んだ。

② 朝10分間読書運動・皆勤運動

⇒スタディサポート等と併用しながら実施。皆勤運動は継続して実施した。

③ 修学旅行(東京)、ホームステイ(私立高校生徒アジア派遣研修事業に参加した)等

⇒修学旅行は9月に予定通りに実施した。私立高校生徒アジア派遣事業は、ベトナムとの生徒相互交流事業が行われた。本校からも2年生1名、1年生1名が参加した。11月にはベトナムの高校生2名の短期受け入れも行った。

④ ラブアースクリーン(1年生による地域清掃)

⇒6月2日(金)1年生全クラスで実施した。

⑤ 授業評価アンケート実施(年2回、7月・12月)とグッドティーチャー賞授与(これは、私学振興大綱の「提言2」の「評価システムの導入」の取り組みである。)

⇒6月、10月に実施した。

⑥ 吹奏楽部サマーコンサート

⇒7月9日にアクロス福岡で5年ぶりに開催した。

⑦ 報恩の日法要(学校創設者ご夫妻の法要)(7月10日(月))

⇒予定通り行った。

⑧ 体育祭(9月29日(金))

⇒福岡市総合体育館にて予定通り実施した。保護者・家族の観覧も全学年可能とした。

⑨ 第7回ダンス部公演(日程は未定)

⇒令和6年1月13日(土)、「福岡南市民センター」において実施した。午前、午後の2回公演を行い、あわせて900名以上の皆様にダンス部の演技を楽しんでいただいた。

⑩ 第39回吹奏楽部定期演奏会(令和6年2月10日(土)、11日(日):福岡サンパレス)

⇒2日間4公演を実施した。あわせて約5,000名の皆様に吹奏楽部の演奏、演技を楽しんでいただいた。

⑪ ご法話(妙泉寺・木村真昭先生、西宗寺・岡本明了先生、各学年月1回)

- ⇒各学年7回のご法話をいただいた。
- ⑫奨学生募集(育英・特技・看護・コース・離島・部活動奨励)
⇒それぞれの奨学生種に応じた生徒の募集を行った。
- ⑬保育福祉コースの保育園実習 (これは私学振興大綱「提言 4」の「キャリア教育を充実させる」の取り組みである。)
⇒八女市の幼稚園にて1年生が10月に実施。福岡市の保育園で3年生が7・8月に2日間実習を行った。
- ⑭製菓コースの職場実習(3年生、夏休み中に1人3日間予定)
⇒中止した。
- ⑮普通(トリカ)コースでの進路研究講座選択者による大学・短大・専門学校・企業等の訪問
⇒予定通り実施した。
- ⑯毎月8の日に博多駅清掃活動(生徒会・ボランティア部)
⇒生徒会、ボランティア部の生徒を中心として延べ200名の生徒が参加した。
- ⑰各科コースに応じた検定資格等取得の奨励
⇒全ての生徒を対象とした英語検定(2級:12名 準2級:30名 3級:52名)、漢字検定(2級:7名 準2級:20名 3級:43名)を始めとし、各コースではコースに応じた資格を取得した。
- ⑱3年就職希望生による朝の清掃活動(学校周辺)
⇒予定通り実施した。
- ⑲看護科
実習
1年生…夏休み中に病院、施設等で5日間
2年生…11月に病院で3週間
3年生…5月下旬から6月中旬にかけて3週間、さらに9月下旬から10月中旬にかけて3週間
⇒予定通りに実施できた
- 戴帽式
2年生…8月5日(土)
⇒予定通り実施した。
- ⑳看護専攻科
病院実習
4年生…12月に12日間実施
5年生…4月～11月に約6ヶ月間
⇒予定通り実施した。
- 病理ミュージアム見学
4年生の9月、10月の各1日、九州大学にて実施
⇒予定通り実施した。
- 個別指導
⇒11月から実施した。
- ㉑授業研究の充実(研究授業の実施等)
⇒新規採用教員に対し実施した。また、グッドティーチャーの師範授業を行った。
- ㉒令和5年度入学生に対してiPad導入
⇒授業、課題の提出、連絡等に活用した。
- ㉓令和5年度全学年において、「総合的探究」の時間に問題解決型学習を導入
⇒予定通り実施した。
- ㉔特別進学コース1・2年生希望者に対してPBL(問題解決型学習)の実施
⇒予定通り実施した。
- ㉕令和2年度入学生より、精華学園育成会(精華サポーターズクラブ)の支援による指定国立大学への大学合格者に対して授業料の援助
⇒令和5年度卒業生で九州大学合格者1名に対して4年間の授業料援助。(現在、令和4年度卒業生1名と併せて2名)

4. 進路実績(合格採用実績)

- (1)進 学:国公立大学 9 名、私立大学 103 名(延べ人数)、短期大学 119 名、専門学校 80 名(延べ人数)、
専攻科 26 名
- (2)就 職:希望者数 27 名 決定者数 27 名 率 100%

5. 精華女子高等学校中長期計画について

第2次中長期計画の策定3年目である。計画の具現化に注意を払いながら、一層充実した学校経営に努めた。